

# 埼玉アートシアター通信

NO. 18

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2008.11-12月号

特集

MEET THE ARTS! 芸術を共有していく活動の真実

彩の国シエイクスピアシリーズ第21弾

冬物語

俳優・唐沢寿明  
いま、そして蜷川演出の舞台へふたたび



SAITAMA  
ARTS  
FOUNDATION

(財)埼玉県芸術文化振興財団

# INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.18 Nov.-Dec.

ESSAY 03 彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾『から騒ぎ』

## 鴻上尚史

PLAY 04 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』

## 俳優・唐沢寿明

いま、そして蜷川演出の舞台へふたび

CINEMA 07 彩の国シネマスタジオ 小さな映画館へ

TOPIC 08 MEET THE ARTS !

芸術を共有していく活動の真実

～“本物との出会い”から生まれる何か～

11 特別レポート：ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団  
楽器クリニックの一日

MUSIC 12 唐澤まゆ子&荘村清志

デュオ・リサイタル

MUSIC 14 埼玉会館ニューイヤー・コンサート

## ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ

16 EVENT CALENDER & TICKET INFORMATION

イベント・カレンダー 2008.11.15-2009.1.31  
前売りチケット発売情報(～2009.1.15)  
発売中公演情報

19 THEATER BRIDGE

公演レビュー、募集など劇場からのご案内

20 Art Window

冬物語

表紙 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』

ILLUSTRATION:トビイ ルツ

編集:横山雅美 ©(財)埼玉県芸術文化振興財団

Published on 15.NOVEMBER 2008 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation



No.18

【演出】蜷川幸雄 「世」W.シェイクスピア「編訳」松岡和子  
【出演】小出恵介 高橋一生 長谷川博巳 月川悠貴 吉田鋼太郎 遠川哲朗  
10月7日(火)23日(木)全19公演



彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾『から騒ぎ』 10月14日公演より

## 鴻上尚史

幕が開いてしばらくして、いきなり、いい女が登場しました。「いい女だなあ、演劇界にあんな女優いたっけ?」と思った次の瞬間、「なにを言っとるんだ。これはオールメール・シリーズなんだから、あれは男性じゃないか。ということは誰だ?……一生じゃねえか!何回も一緒に仕事している高橋一生じゃねえか!あいつ、あんなに綺麗だったのかあ!」と心の中で叫んでいました。

悔しいことに、一生の女装した顔は、僕の理想の女性の顔でした。これはかなりショックでした。楽屋に行って、悔しいけれど、と告げました。複雑な心境でした。

オールメール・シリーズの見どころは、やっぱり、なんと言っても男性が女性を演じ、その女性に男性が愛を告げる所です。

マーガレット役の岡田正さんの愛らしさと下品さ。いやもう、あのかくよかな胸(?)にまいりました。

小出恵介さんのやんちゃなベネディックは、400年の時を越えて、今の若者に通じる艶っぽさでした。

吉田鋼太郎さんのドン・ペドロは、「ああ、あなたは美味しいところは全部もらうのね。だから、バイなのね」という抱腹絶倒の喜劇でした。失礼ながら、吉田さんの悲劇の手腕はよく存じ上げておりましたが、喜劇の手業の凄さにも感動しました。

みずみずしい、若さ溢れる、『から騒ぎ』でした。しかし、一生は綺麗だった。まいった。

こうかみしよじ◎作家・演出家。1958年愛媛県出身。1981年に劇団「第三舞台」を結成し、作演出を手がける。80年代小劇場演劇10年の旗手のひとり。舞台公演のほか、エッセイや演劇関連の著書も多く、ラジオ・パティシエ・テレビの司会、映画監督など幅広く活動。2008年5月に若手の俳優を集めて「蜷川の劇団」を旗揚げし、同年12月には新宿紀伊國屋ホールにて第2回公演「リアテ」・「三日月」の上演を予定している。

俳優・  
唐沢寿明

## いま、そして蜷川演出の舞台へふたたび

彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』に、主演レオンティーズ王での出演を控えた唐沢寿明。映画『20世紀少年』が全世界での公開で大きな話題を集めている中、舞台俳優としての自らを振り返る独占インタビュー。

シェイクスピア・ドラマの本質に感じるもの、そしてこれまでに出演した蜷川演出の舞台、『マクベス』『コリオレイナス』で得た実感を振り返って、この『冬物語』での蜷川幸雄との邂逅に期待するものを語ってくれた。

取材・文=藤本真由(舞台評論家)

interview Toshiaki Karasawa

何か事が起こってさまざまなものが崩壊していく。  
それは、人間誰しも経験すること(唐沢)



## 蜷川シェイクスピアの舞台で感じてきたもの

蜷川さんとは、『コリオレイナス』(シリーズ第16弾/2007年)に出演しているときから、また何か一緒にやりたいねという話はして、そのときはまだ作品が決まっていなかったんだけど、『冬物語』と聞いて、また難しい作品を蜷川さんが持ってきたなあ(笑い)。日本では上演機会が少ない戯曲ですし、作品的にも、前回以上にもっとちゃんとやらないといけないと思いますね。

『コリオレイナス』でやっと、シェイクスピア作品に少し慣れたかなという思いはある。どういう状況に陥ろうとも何とかするという気持ちになれた(笑い)。最初に出た『マクベス』(シリーズ第8弾/2001年)なんか、今から思えば、未熟さが気になるところがあって。初めてだったし、一生懸命やってはいるんだけど、「若いな」という感じだよ。

実際やってみて、シェイクスピアって、すごくわかりやすい、しかもいい話ばかり書いているのに、これだけ難しい難しいって言われている人も珍しいなど。都市の名前とか、役名とかで、頭がごちゃごちゃになってしまうという部分はあるのかもしれない。そのあたりの部分で万人受けはしないのかもしれないけれども、そこがクリアになったら決して難しくはないと思う。もともとはわかりやすい話を、演出も含めて、人間関係をクリアに提示することでわかりやすく見せているという意味で、この彩の国シェイクスピア・シリーズの功績って大きいものがあるんじゃないかな。

『冬物語』のレオンティーズ王に  
求められるバランス

『コリオレイナス』にしても、あんなにわかりやすい話はないわけで、シェイクスピアは『ハムレット』とか『ロミオとジュリエット』だけじゃ

ないぞって思うよね。きわめて当たり前のことが書かれていて、セリフの中にも共感できる部分がいっぱいある。演っていてすごく面白かった。ただ、当たり前すぎて、観ている人にとってはつらくなる場所があったかもしれない(笑い)。

今回演じるレオンティーズは、まあ、変な人ではあるよね。ただ、特徴的なところだけを見ると愚かな王なんだけれども、この人にも、従う人々、尊敬のまなざしで見ている人々というのがいるわけで。何か事が起こってさまざまなものが崩壊していくっていうのは人間誰しも経験することだし、その部分がうまくできたらちゃんと成立する話で、うまくできなかつたら単なる愚かな王になってしまう。

ただ、この話の場合、崩壊までがすごく短いんだよね。だから、最初から嫉妬深いところを出しても別におもしろくないと思うし……。妻に対してすごく愛情を持っていることは間違いないから、その裏返しゆえの嫉妬なんだろうと思う。実際やってみないとわからない部分が多いけど、すごく細かいバランスを取らないと成立させられない話だなと思いますね。



©宮川真子

## 階段を一段でも昇らせようという蜷川さんに、一段昇らなきゃという気分させられる

蜷川さんは、いいところもだめなところもいろいろ言うてくれるのがいいと思う。言う相手にもよると思うんだけど、みんなの前で怒鳴られたりもするよ。言ってもその意味がちゃんとわかっていて、傷つかないと思われてるからだと思う。蜷川さんの場合、階段を一段でも昇らせようという思いがすごく伝わるので、こっちも、ここでやっぱり一段昇らなきゃという気分させられるんだよね。個人のスタイルを崩してまでそういうことをやらせようって、普通は思ってもらえないから。自分の場合は、シェイクスピアから“種太郎”（地球ゴージャス『HUMANITY THE MUSICAL～モモタロウと愉快な仲間たち～』2006年で演じた桃太郎オマージュのキャラクター）までやってるので、基本、自分のスタイルってないけどね(笑)。『冬物語』も、直前まで映画『20世紀少年』を撮ってるから、あの世界からシェイクスピアにちゃんと戻れるのかなってちょっと心配ではあるんだけど(笑)。

『コリオレイナス』を経て思うのは、経験を積まないとやっぱりだめなこと。何本作品に出演したとか、そういうキャリアだけじゃだめなんだよね。自分の好きな分野ばかりとか、得意なものだけやっていてもだめで、特別な経験でないときちんと積み重なっていかない。その意味で『コリオレイナス』は特別な経験だったと思うし、今回の『冬物語』も特別な経験にできればいいと思う。自分がどれだけのことができるのかという意味では、不安もあるけれども楽しみでもあって。共演も素晴らしい方々が揃っているし、ちゃんとした俳優なんだと認めてもらえるように取り組んでいきたい。前回よりもう少し成長した姿を見せたいし、それで、お客さんに満足してもらえるような舞台になればいいと思いますね。



## The Winter's Tale Cast Profile



**唐沢寿明 (からさわ としあき)**  
1987年、『ボーイズレビュー-ステイゴールド』で初舞台。『利家とまつ』(NHK)、『白い巨塔』(CX)などのドラマに出演。97年、映画『ラヂオの時間』(三谷幸喜監督)で日本アカデミー賞優秀主演男優賞受賞。主な舞台作品に、山田和也演出『浪人街』、NODA・MAP『TABOO』『カノン』など。蜷川演出作品は、『マクベス』『天保十二年のシェイクスピア』『コリオレイナス』。04年公開の蜷川監督映画『嘘う伊右衛門』(東宝)では主役を演じた。



**横田栄司 (よこた えいじ)**  
東京都出身。文学座座員。これまで舞台、映画、テレビと幅広く活動。主な舞台に、さいたま芸術劇場では『リチャード三世』『近代能楽集』『タイタス・アンドロニカス』『リア王』『ガラスの仮面』がある。ほかに『ひばり』『カリキュラ』『ヴェニス商人』など。本年5月には、さいたまゴールド・シアター第二回公演『95kgと97kgのあいだ』に出演。それ以外では映画『独立少年合唱団』、テレビ『私立探偵・演マイク』第一話など。



**田中裕子 (たなか ゆうこ)**  
文学座出身。81年に映画『北斎漫画』『ええじゃないか』で日本アカデミー賞最優秀助演女優賞、ブルーリボン賞助演女優賞などを受賞。83年に『天城越え』でキネマ旬報主演女優賞、モントリオール映画祭最優秀女優賞などを受賞。06年には『いつか読書する日』『火火』でキネマ旬報主演女優賞、毎日映画コンクール主演女優賞など多数の映画賞を受賞。蜷川演出作品は『藪原検校』(07年)以来、5度目の出演となる。



**長谷川博己 (はせがわ ひろき)**  
2001年文学座研究所に入所。TPT『BENT』(ロバート・A・アッカーマン演出)で初舞台を踏み、以降も『ゴロヴリョフ家の人々』(永井愛演出)『赤い月』(鶴山仁演出)『トーチソングトリロジー』(鈴木勝秀演出)等の舞台で活躍。06年文学座退団後も、『シェイクスピア・ソナタ』(岩松了演出)等の舞台に出演している。蜷川演出作品には05年『KITCHEN』07年『カリキュラ』08年『わが魂は舞く水なり』『から騒ぎ』に出演。

●●●●● PLAY ●●●●●  
彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』

【日時】2009年1月15日(木)～2月1日(日) 全18公演  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【翻訳】松岡和子  
【出演】唐沢寿明 田中裕子 横田栄司 長谷川博己  
藤田弓子 六平直政 逢川哲朗 ほか

【チケット(税込)】好評発売中  
一般：S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円/学生席2,000円  
メンバーズ：S席8,100円/A席6,300円/B席4,500円

schedule

2009年1月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2月	1
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:00																			
18:30																			

【さいたまアーツ・シアターライブ!!】  
多彩なアーティストによる生演奏を開場30分前より情報プラザ等で開催します。

## 小さな映画館へ、 ちょっといい映画を見に行く

文=高橋千秋(映画ライター)

とびきり贅沢ってわけじゃないけど結構“とっておき”。ささやかだけれどもやっぱり“また行きたいな”。あれやこれやの毎日の中で、“ホッとできる場所”嬉しいひとときを持っているのは、何となくすてきなことのような気がします。古い古いコーヒーショップとか、なつかしい味の総菜屋さんとか、遠回りなのになぜか好きな帰り道のお月さまとか、はたまた、ちょっといい映画をやっている小さな映画館で過ごす休日とか。

彩の国さいたま芸術劇場の映像ホールでは、毎月「彩の国シネマスタジオ」を開催中。客席数150の小さな空間で、毎回選りすぐった「素敵な映画」を上映しています。丹誠こめて厳選した一本一本は、それぞれの「キラキラ」を放つとびきりの映画たち。リリー・フランキーが法廷画家に扮した『ぐるりのこと。』は、ある夫婦の姿を、1990年代に実際起きた社会事件を織り込みつづるドラマ。見ながらふと「私の人生って、映画にするとどんなことになるのかなあ」なんて考えたり。『赤い風船』『白い馬』はカンヌ国際映画祭で賞を受けたフランス映画の二本立て、真っ赤な風船を親友のように大切にしている小学生・美しい白馬を必死で守ろうと駆け回る美少年、どちらも心にかれんで不思議な“足跡”を残すことでしょう。『西の魔女が死んだ』には名女優シャーリー・マクレーンの娘サチ・パーカーが出演。不登校の中学生の女の子がおばあちゃんと一緒に過ごす生活、そ

### ●●●●● CINEMA ●●●●●

彩の国シネマスタジオ『ぐるりのこと。』

【日時】12月12日(金) 12:00 / 15:15 / 18:30  
13日(土) 10:00 / 14:15 / 18:30  
14日(日) 10:00 / 13:30 / 17:15  
※12/14(日) 13:30上映回終了後、田島良一氏によるアフタートークあり

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【監督】橋口亮輔  
【出演】木村多江 リリー・フランキー 倍賞美津子 寺島進 安藤玉恵 八嶋智人 ほか(2008年/日本/140分)

【チケット(税込)】好評発売中  
一般：前売1,000円/当日1,200円  
小中高生：前売800円/当日1,000円

彩の国シネマスタジオ『赤い風船』『白い馬』

【日時】2009年  
1月9日(金) 12:20 / 14:40 / 17:00 / 19:40  
10日(土) 10:00 / 12:10 / 14:40 / 17:00 / 19:40  
11日(日) 10:00 / 12:40 / 15:00 / 17:00  
※1/10(土) 12:10上映回終了後、石子順氏によるアフタートークあり

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『赤い風船』【監督・脚本】アルベール・ラモリス  
【出演】バスカル・ラモリス ほか(1956年/フランス/36分)

『白い馬』【監督・脚本】アルベール・ラモリス  
【出演】アラン・エムリー ほか(1953年/フランス/40分)

【チケット(税込)】一般：前売1,000円/当日1,200円  
小中高生：前売800円/当日1,000円  
※『赤い風船』、『白い馬』の順番で各回上映します。  
料金は、2作品で上記の料金となります。  
【発売日】一般・メンバーズ：11月18日(火)

彩の国シネマスタジオ『西の魔女が死んだ』

【日時】2009年  
2月13日(金) 13:00 / 15:50 / 19:10  
14日(土) 10:00 / 12:50 / 16:00 / 19:30  
15日(日) 10:00 / 13:10 / 16:10

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【監督】長崎俊一 【原作】製木香歩  
【出演】サチ・パーカー 高橋真悠 りょう 大森南朋

高橋克実 木村祐一 ほか(2008年/日本/115分)  
【チケット(税込)】一般：前売1,000円/当日1,200円  
小中高生：前売800円/当日1,000円

【発売日】一般・メンバーズ：12月12日(金)  
※日本語字幕とともに音声ガイドをプリントに直接焼き付けています。  
お客様全員に音声ガイドが聞こえますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

## NEWS!

## さいたまゴールド・シアター、 「フェスティバル/トーキョー」での 招聘公演が決定!

蜷川幸雄率いる55歳以上の団員による演劇集団「さいたまゴールド・シアター」が、国内外を代表する現代舞台芸術が集う祭典「フェスティバル/トーキョー」で、初の遠征公演に挑みます。2009年3月、にしすがも創造舎特設劇場で上演するのは、今年6月の第2回公演で絶賛された『95kgと97kgのあいだ』。団員たちの実人生経験がにじみ出るような力演に加え、横田栄司を始めとする客演俳優たちの迫力の演技が観客を魅了します。お見逃しなく!

### ●●●●● PLAY ●●●●●

さいたまゴールド・シアター  
『95kgと97kgのあいだ』

【日時】2009年3月18日(水)～29日(日) 全11公演

【会場】にしすがも創造舎特設劇場

【作】清水邦夫 【演出】蜷川幸雄

【出演】さいたまゴールド・シアター NINAGAWA STUDIO 横田栄司 ほか  
【料金】未定 【発売日】12月18日(木) ※財団チケットセンターにてお取扱いあり。  
【問合せ先】フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局  
TEL:03-5961-5202 http://festival-tokyo.jp



# MEET THE ARTS!

## 芸術を共有していく活動の真実 ～“本物との出会い”から生まれる何か～

芸術の“普及教育(アウトリーチ)”という言葉が随分と定着し、全国でもさまざまな試みが行われている。ここ彩の国では、それを“本物との出会い”という想いを柱にした企画で、子どもたちだけでなく一般の人たちも対象に、劇場の内外で多くの活動を行ってきた。それは、芸術が何を与えてくれるのかをみんなで共有して、“一緒に考えていく方法”でもある。その意味を一緒に共有したい、そんな願いから今年も様々な活動を行っている。



楽器と身体を一体化させること。それには、何より“自分を感じる”ことが大切だよ。



本当に振動してる！自分の身体の動きを意識する、こんな練習ではじめて。

### 平成20年度埼玉県芸術文化振興財団 アウトリーチ活動

《インサイド》～彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館

- MUSIC 「みんなのオルガン講座」
- MUSIC 「ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団 楽器クリニック」
- MUSIC 「音楽ワークショップ 家族でワクワク体験～魔法の笛たちのひ・み・つ～」
- DANCE 「熊谷会館クラシックバレエ・セミナー」
- DANCE 「ナチョ・ドゥアト振り付け作品レポーター・ワークショップ」
- OTHER 「劇場体験ツアー」

3歳以上のお子さんから楽しんでいただける公演企画

- MUSIC 「熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド！」
- MUSIC 「埼玉会館ファミリー・クラシック パディントン ペア™ といっしょにコンサートに行こう！」
- MUSIC 「光の庭プロムナード・コンサート」(こちらの公演には年齢制限はありません)
- DANCE 「日本昔ばなしのダンス 近藤良平・森下真樹」

《アウトサイド》～埼玉県内

- MUSIC 「MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる！」

※詳細内容は財団ホームページ <http://www.saf.or.jp/education/index.html> にて

## MEET THE ARTS! Inside 座席から出て、参加して感じてみよう

劇場の中では、一流の講師陣による例年の定期的な参加型のレクチャー、ワークショップに加え、小さなお子さんと一緒に身近で音楽を楽しめる「光の庭プロムナード・コンサート」が無料で開催されている。

### MUSIC みんなのオルガン講座 ～ポジティブ・オルガンの音色に、新しい夢を重ねてみませんか～

コンサートホールや教会などで見かけることはあっても、なかなかそばで見られる機会も、ましてや触れる機会もないパイプオルガン。彩の国さいたま芸術劇場には、移動可能なパイプオルガン“ポジティブ・オルガン”があるのをご存知でしょうか？土曜日の午後に行っている「光の庭プロムナード・コンサート」でも活躍しているこのオルガンのことをもっと知りたい、という思いから、当劇場では平成18年度より「みんなのオルガン講座」を開催しています。当劇場オルガン事業アドバイザーの大塚直哉氏を講師に迎え、今年は3回のレッスンのちに情報プラザでの発表会に臨む「基本コース」のほか、オルガンに興味を持ち始めた方のための「はじめて知るパイプオルガン」、パイプオルガンのことをもう少し知りたい方のための「パイプオルガンの旅～17世紀オランダ編～」の2つのレクチャーも実施しました。基本コースの発表会は、11月3日に情報プラザで行われたばかり。1年目の受講生はソロを、2年目



の受講生はほかの楽器や歌とのアンサンブルを披露し、温かい拍手を浴びていました。このコースは2年で修了ですが、修了生は劇場のポジティブ・オルガンを借りることができるため、自主的な練習会を行うなど、それぞれのペースでパイプオルガンとの付き合いを続けている方も多く、その輪がますます広がっていくことを期待しています。

開催スケジュール

4月29日(月・祝) レクチャーA はじめて知るパイプオルガン  
レクチャーB パイプオルガンの旅～17世紀オランダ編～  
6月8日(日)、8月3日(日)、10月13日(月・祝)  
基本コース レッスン  
ソロクラス(鍵盤楽器経験が3年以上)12名  
アンサンブルクラス(ソロクラス修了生)7名  
11月3日(月・祝) 基本コース 発表会

〔講師〕大塚直哉(おつか なおや)  
東京藝術大学大学院チェンバロ専攻、阿姆斯特ダム音楽院チェンバロ科およびオルガン科修了。「パッサ・コレギウム・ジャパン」などの通奏低音奏者として、またチェンバロ、オルガンなどのソリストとして活躍するほか、これらの楽器に初めて触れる人のためのワークショップを各地で行う。彩の国さいたま芸術劇場オルガン講座講師およびオルガン事業アドバイザー。  
公式HP：<http://homepage3.nifty.com/utremi/>

### DANCE 熊谷会館クラシックバレエ・セミナー ～小さなバレリーナたちは、本場さながらの指導を受ける～

夏休みの熊谷会館では毎年、ニコライ・フォードロフ氏を講師に招き、クラシックバレエを学ぶ子どもたちを対象としたセミナーを開催しています。フォードロフ氏は1990年までロシア・バレエの殿堂ボリショイ劇場で活躍した著名なバレエダンサー。現在は第一級のバレエ指導者として日本でも高い評価を得ています。今年は小学低学年から高校生までの52名が、初級・中級・上級の各コースに分かれて2日間にわたる熱心な指導を受けました。先生からは、基本に重点をおいた細やかな注意や指示が次々と。真剣な表情で精一杯に応える受講生たち。技術的なポイントやバレエへの姿勢など、多くを学びとっていました。毎年このセミナーでは熊谷会館の広い舞台上がレッスン場に早変わり、発表会や公演さながらの環境でレッスンします。緊張のうちにも、小さ



なバレリーナたちは舞台上立つ喜びを感じ、「いつか本番の舞台で踊りたい!」と希望を大きく膨らませた2日間でした。

開催スケジュール

8月26日(火)、27日(水)  
初級クラス 経験2～4年(小学1年生以上) 20名  
中級クラス 経験5～6年(小学4年以上) 20名  
上級クラス 経験7年以上(中学1年生以上) 12名

〔講師〕ニコライ・フォードロフ  
モスクワ国立バレエ学校でE.セルギエフスカヤ、P.ベストフォ、E.ヴァルレーン、M.リエバに師事。1970年、ボリショイ劇場バレエ団入団。エルモラーエフ、ファジーチェフ、メッセレル、セミョーノフなどに指導を受け、ソロキナ、アナニシビリ、セメニャーカなど当代の花形スターとパートナーを組み活躍、世界的人気を誇った。現在は東京とモスクワを往復し、バレエ教師、バレエプロデューサーとして活躍している。ロシア共和国功労芸術家。

### MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート

#### 光と音色につつまれる幸せなひととき

彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ(1階) 14:00 開演(入場無料)



◎加藤英弘

土曜日の午後、穏やかな光が差し込む「情報プラザ」で開催している無料コンサート。劇場所有のポジティブ・オルガン(移動可能なパイプオルガン)を中心としたアンサンブルでお届けしています。

11月はめったに聴くチャンスのない2台オルガンの共演を。そして12月はクリスマスを目前に控え、キリストの誕生をめぐる物語のシーンをオーボエとの共演でたどります。光と音色に包まれて心温まる幸せなひとときを過ごしたいらっしゃいませんか?

#### Lineup こちらの公演には年齢制限はありません。

- 11月22日(土) 重ね合う響き、響き合うふたり。～2台ポジティブ・オルガン午後～  
近藤 岳(オルガン) & 勝山雅世(オルガン)  
【曲目】近藤 岳:3つのストラクチュール～2台のポジティブ・オルガンのための～  
パッサ:6声のリチェルカーレ ほか
- 12月20日(土) The First Nowell ～オルガンとオーボエで贈るクリスマスの風景～  
早川幸子(オルガン) & 市川鉄也(オーボエ)  
【曲目】テレマン:トリオ・ソナタ 変奏長調 クリスマス・キャロル・メドレー ほか
- 2009年1月24日(土) ～星に寄せるうた～  
佐藤礼子(オルガン) & 萩原 潤(バトーン)  
【曲目】ブクステフーデ:晩の星のいと美しきかな いずみたく:見上げてごらん夜の星を ほか
- 2009年2月21日(土) 浅尾直子(オルガン) & 本間千也(トランペット)  
【曲目】スヴェーリク:ポーランド風舞曲 ほか
- 2009年3月21日(土) 浅井美紀(オルガン) & 能登谷安紀子(ヴァイオリン)  
【曲目】パッサ:おおまなる神、われを憐れたまえ BWV721 ほか

**MEET THE ARTS! Outside** 僕らのそばまで飛び出すアーティスト

ここ数年は劇場の外へ出た活動も活発。学校の子どもたちに直接音楽を届ける、出張演奏「MEET THE MUSIC」を実施している。今年も10校の“音楽との出会い”が実現した。

**MUSIC MEET THE MUSIC** ~アーティストが学校にやってくる!

アーティストが奏でる音色に触れることの意味

普段はなかなかコンサートホールに足を運ぶ機会のない子どもたちに、音楽を聴く楽しみを味わってもらいたいと、埼玉県芸術文化振興財団では、県内の小中学校に Outreach ミニコンサートを行っています。名づけて、「MEET THE MUSIC ~アーティストが学校にやってくる!」。

コンサートホールではステージと客席との間に距離があっても、学校の体育館や音楽室で行うこのコンサートでは、アーティストが子どもたちの間を演奏しながら歩いたり、演奏しているまわりに子どもたちを呼び寄せたり、文字通り目の前で演奏を聴けるのが魅力です。単に演奏している様子を間近で見られるというだけでなく、音を体で感じられる体験は得難いもの。子どもたちから寄せられるアンケートには、「音楽って楽しい!」「まずは是非聴きたい。」「今度はお父さんやお母さんと一緒にコンサートに行ってみよう。」など、頼もしい声がたくさん詰まっています。

アーティストが本気であればあるほど、子どもたちはそれを正面から受け取って、心のなかに芽生えた興味を育ててくれるはず。それが今すぐには芽吹かなくても、10年後、20年後…に花を咲かせてくれたら。そんな願いを胸に、今年も4組のアーティストたちとともに10校の小中学校を訪問します。



2007/9/21 行田市立忍中学校 宮本益光(バリトン) & 加藤昌則(ピアノ)



2006/7/11 三芳町立竹間沢小学校 加藤訓子(打楽器)

平成20年度実施10校一覧

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>6月11日(水) 三郷市立八木郷小学校</b><br/>参加アーティスト:クラール弦楽四重奏団<br/>【曲目】モーツァルト:アイネ・クライネ・ナハトムジーク<br/>アンダーソン:シンコペータッド・クロック ほか</p>             | <p><b>10月27日(月) 北本市立南小学校</b><br/>参加アーティスト:Buzz Five (金管五重奏)<br/>【曲目】サン＝サーンス:組曲(動物の園内祭)より(象)<br/>久石 譲:ポニー・メドレー ほか</p>          | <p><b>11月20日(木) 所沢市立椿峰小学校</b><br/>参加アーティスト:江崎浩司(リコーダー) &amp; 長久真実子(ピアノ)<br/>【曲目】モーツァルト(江崎浩司編曲):トルコ行進曲<br/>モンティ:チャールダーシュ ほか</p>   |
| <p><b>10月16日(木) 大和町立原道小学校</b><br/>参加アーティスト:クラール弦楽四重奏団<br/>【曲目】ドヴォルジャーク:弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」より 第4楽章<br/>～みんなで歌おう～ 下総 暁一:原道小学校校歌 ほか</p> | <p><b>10月30日(木) 羽生市立羽生北小学校</b><br/>参加アーティスト:木管五重奏団<br/>【曲目】パッサ:主よ人の望みの喜びよ<br/>ジョブリン:ラグタイム・タンゴ ほか</p>                          | <p><b>12月2日(火) 戸田市立戸田第一小学校</b><br/>参加アーティスト:Buzz Five (金管五重奏)<br/>【曲目】アンダーソン:トランペット吹きの日<br/>モーツァルト:ホルン協奏曲第1番より 第1楽章 ほか</p>   |
| <p><b>10月17日(金) 蓮田市立黒浜南小学校</b><br/>参加アーティスト:クラール弦楽四重奏団<br/>【曲目】エルガー:愛の挨拶<br/>～みんなで歌おう～ 杉本 竜一:バレー ほか</p>                           | <p><b>11月5日(水) 上里町立賀美小学校</b><br/>参加アーティスト:Buzz Five (金管五重奏)<br/>【曲目】アンダーソン:トランペット吹きの日<br/>フィルモア:ラグタイム・タンゴ ほか</p>              | <p>参加アーティスト.....<br/>クラール弦楽四重奏団=佐久間瑞穂(第1ヴァイオリン)、<br/>宮澤さやか(第2ヴァイオリン)、富田大輔(ヴィオラ)、大瀧<br/>奈奈(チェロ) / 木管五重奏団=宮本優美(フルート)、藤村<br/>理子(オーボエ)、小坂真紀(クラリネット)、井上直哉(ファゴット)、<br/>奈良京子(ホルン) / Buzz Five = 上田 仁・小川 聡(トランペット)、<br/>友田雅美(ホルン)、加藤直明(トロンボーン)、<br/>石丸薫恵(チューバ)</p> |
| <p><b>10月21日(火) 朝霞市立朝霞第二中学校</b><br/>参加アーティスト:木管五重奏団<br/>【曲目】パッサ:主よ人の望みの喜びよ<br/>茂木 大輔:父の掌 ほか</p>                                   | <p><b>11月18日(火) 小川町立小川小学校</b><br/>参加アーティスト:江崎浩司(リコーダー) &amp; 長久真実子(ピアノ)<br/>【曲目】クーブラン:愛のうぐいす<br/>モーツァルト(江崎浩司編曲):トルコ行進曲 ほか</p> |  |

**MEET THE ARTS!**  
アウトリーチ  
レポート

ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団  
**楽器クリニックの一日**

～世界最高峰のベルリン・フィルのメンバーと共有した時間のもたらすもの～

「今日先生が吹いた楽器の音を聴いただけで、本当にすごかった。」「ホルンは人柄が出る楽器だと教わったけど、先生の音を聴いてそう思えた。」

10月4日、埼玉県内高校の吹奏楽部・音楽科から募った参加者たちは、その素晴らしさをしっかり受け止めていた。世界最高峰の音楽家たちがプレゼントしてくれた楽器クリニックは、大きな喜びと楽しい発見に満ちていた。



**F** ヲファゴット agott

自分の出す音、そして仲間の出す音を知ろう

ファゴット・セクションは、ロングトーンなどの一般的な訓練を展開する中でトローク氏の、生徒たちへの対等な姿勢が印象的だった。

それは開始早々のトローク氏の実験の一言から始まった。「はじめまして。まずは君たちのファゴットの音を一人一人聴かせてくれるかな?」。最初は緊張感が漂ったものの、一人一人が演奏するたびにトローク氏のコメントする「とてもやさしい音色だね。」「よく整ったトーンで出ているね。」といった、それぞれの演奏に対する温かい言葉を聞いて生徒たちの顔は輝いた。

**MEET THE ARTS!**



**H** ホルン orn

楽器と一体になることは、自分を知ること

ホルン・セクションでは、身体と楽器の一体化ということを目指した練習を展開。カラテの掛け声などを使って、呼吸法の訓練方法を試した高校生たちからは笑みがこぼれる。

マックウィリアム氏から常に出ている言葉、「自分を信じよう!そして、感じてみよう!」という温かい励ましのメッセージは、生徒たちにはとても新鮮だったようだ。しかし、その意味を素直にとれるのも、高校生ならではの。緊張はすぐにやわらぎ、マックウィリアム氏が一番教えたかった“楽器と一体になること”を探り始めていた。



**K** クラリネット larinette



一緒に演奏することは、コミュニケーション

クラリネット・セクションは、身体を使ったワークショップを通して演奏者同士がお互いを感じあい、そして尊重しあう大切さを体感させる内容だった。

終始笑顔のザイファルト氏のもと、ワークショップでは、楽器を置いて生徒たちを同じ向きの円形に立たせ「自分の後ろの人の名前を、前の人に伝える」パス・ゲームなどが実施された。各校から参加した生徒たちは、はじめての相手も多くとまどいもあったが、アンサンブルに重要なコミュニケーションの意味を理解して、楽しさに満ちた時間を過ごしていた。

- 楽器クリニック 開催データ** 対象者:埼玉県内高校の吹奏楽部・音楽科の生徒84名
- 【フルート】講師:ミヒャエル・ハーゼル 場所:音楽ホール(20名、見学18名)
  - 【オーボエ】講師:アンドレアス・ヴィットマン 場所:映像ホール(12名)
  - 【クラリネット】講師:ザイファルト 場所:小ホール(20名、見学21名)
  - 【ホルン】講師:ファーガス・マックウィリアム 場所:大練習室(22名、見学2名)
  - 【ファゴット】講師:ヘニング・トローク 場所:中練習室(10名)

音楽を通じて、生徒たちに“自分自身に力を与える”意識を  
～ベルリン・フィルハーモニー・ホルン奏者、ファーガス・マックウィリアム氏に聞く～

ベルリン・フィルのメンバーはみな、社会に対していつも大きな責任を感じています。私たちがのような音楽家は、これからの担う若い演奏家たちに対して、自分が経験してきた体験やアドバイスを提供すべきだと考えているからです。そのほか何であれ、音楽家として出来る限りのお返しをする義務があるとも思っていますね。

今日のような機会を持って改めて思うことは、指導者は生徒が“自分自身に力を与える”意識を持つことをめざし、全力でサポートすべきだということです。あらゆる楽器指導にも言えるのですが、大切なのは、生徒が自分自身について強い自覚と良い印象を持つこと、そして自分のあるべき姿や身体感覚を考えるようになる“自分を観察できる力”を会得することなのです。難しいですが、そうした自覚を導くことが重要なのですよ。





## 唐澤まゆ子 & 荘村清志

デュオ・リサイタル *Mayuko Karasawa & Kiyoshi Shomura*

### ギターの響きに乗せて、様々な歌を楽しむ

それぞれのジャンルで輝くソリストのデュオ公演の実現。

バロック音楽などで活躍の顕著なソプラノ・唐澤まゆ子と、還暦公演も終えたばかりのギターの重鎮・荘村清志の公演は、実は18世紀音楽の裏づけと強いお互いへの信頼関係で結ばれている。そこに花開く、豊かな音楽を楽しむ行為に身をゆだねに行こう。

取材・文=片桐卓也(音楽ライター)

### 歌声とギターの音色の溶け合うその奥深さを

ギターと歌と言えば、フォークソングやポップスでは当たり前の組み合わせだ。でも、クラシックにもその組み合わせがある。というよりも歴史的に見れば、ギターは伴奏楽器として盛んに使われていたのだ。ルイ16世王妃マリー・アントワネットの音楽の研究家でもあるソプラノ歌手の唐澤まゆ子さんは、こんな事実を教えてくれた。

「当時はポケットに入る楽譜があって、それには歌詞とギターの伴奏コードが書いてあるんです。18世紀にはギターの伴奏で歌うことは、サロンなどでよく行われていました。チェンバロ、ハーブと共に、ギターはとてもポピュラーな伴奏楽器だったんです。」今回、クラシック・ギター界のベテラン、荘村清志さんと唐澤さんのデュオ・コンサートが実現した。すでにNHKの「趣味悠々」や荘村さんの還暦記念コンサートでも共演しているが、さらに幅広いレパートリーを取り上げる。

「ファリャの《7つのスペイン民謡》はもともとピアノと歌のために作曲されたものですが、荘村さんがギターに編曲してくださいました。他の曲もすべて荘村さんの編曲です。荘村さんのギターの音色は多彩なので、色々な国の音楽を表現する上で、その音色がどのように変化していくか、とても楽しみです。」と唐澤さん。一方、ギターの荘村さんは、歌との共演の魅力をこう語る。

「ギターと歌の相性はとても良いと思っていたんです。コンサートホールでの音のバランスが、ピアノ伴奏よりギターの方がびつたりくる。特に唐澤さんの場合、ギター伴奏の時は繊細な歌唱表現を心がけていて、その点が魅力的だと思います。また彼女自身が歌に賭けている、そんな姿勢が常に感じられて、共演していてエネルギーをもらえる存在です。」

二人が共演するのは、マリー・アントワネットの歌曲《それは私の恋人》、マルティーニの《愛の喜び》など18世紀の作品に始まり、スペイン物、日本歌曲など。ギター伴奏の日本歌曲は珍しいかもしれない。

「ギターの音色はしみじみするというか、その雰囲気は日本語の音に合う感じがしますね。それに日本語の歌はいわゆるクラシックという感じではなく、自分の中にある記憶とか感覚で歌えるので、それをお客様にも感じてもらえるのでは。」と唐澤さんは語る。ギターの伴奏も工夫をこらしてある、と荘村さん。

「日本歌曲の伴奏の場合は、ピアノの譜面が意外とシンプルなので音を足したりもしますが、繊細に歌い込める作品も多いので、ギターにとっても合うと思います。また貴志康一の作品はお祭りのような雰囲気があるので、ギターもラスゲアード奏法(注・フラメンコでよく使う弦をかき鳴らす奏法)を使ったり、楽しい雰囲気を演出しています。」

普段はあまり耳にすることのないギターと歌の組み合わせによるクラシック。ギター・ソロの曲も含めて、その演奏に期待したい。



#### Profile

**唐澤まゆ子** からさわ まゆこ (ソプラノ)

パリ国立高等音楽院声楽科を経てパリ音楽院バロック科を最優秀で卒業。CDデビューを機に日本での活動を開始。一方欧州ではバロック音楽の拠点ボウツィー劇場に出演。2008年4月、6月には同劇場で上演されたオペラに抜擢され、11月はアン・デア・ウィーン劇場ほかに出演する。レパートリーは幅広く、表情豊かな澄んだ声に定評がある。

**荘村清志** しょうむら きよし (ギター)

スタンダードな名曲から現代音楽まで幅広いレパートリーと高い人気を誇る日本ギター界の第一人者。1963年に巨匠イエベスに認められ、氏に師事。69年の日本デビュー・リサイタルで、高い評価を得る。以後リサイタル公演、日本の主要オーケストラへの客演は数多く、ギターの魅力をさまざまな形で人々に伝えている。

●●●● MUSIC ●●●●

#### 唐澤まゆ子(ソプラノ) & 荘村清志(ギター) デュオ・リサイタル

【日時】12月7日(日) 開演15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【曲目】マリー・アントワネット:それは私の恋人 パッハ=グノー:アヴェ・マリア  
ファリャ:《7つのスペイン民謡》より 山田耕祥:この道  
貴志康一:かごかき タレガ:アルハンブラの想い出(ギター・ソロ)  
ドリーブ:カディスの娘たち ほか

【チケット(税込)】好評発売中

一般:3,000円 / 学生1,500円 / メンバース:2,700円



Norie Suzuki

Peter Guth

Satoshi Mizuguchi

埼玉会館ニューイヤー・コンサート  
**Strauss Festival Orchestra Vienna**  
 ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラ

### ウィーンの香りが幸せを運んでくれる

新年恒例になった埼玉会館のニューイヤー・コンサート。今回はシュトラウス2世と同じスタイルを継承する、ヴァイオリンを持つ指揮者ペーター・グート率いるウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラが登場する。ウィーンのお正月そのままの、美しく楽しいシュトラウス2世のワルツやポルカ、そしてオペレッタの名曲の響きを楽しむコンサートは、聴く人々に明るい門出を約束してくれるに違いない。

文=堀江昭朗(音楽ジャーナリスト)

クリスマス・シーズンの締めくくりとなるのが新年という感覚の欧米では、日本での改まった雰囲気を迎える新年とは趣が違うようだ。とはいえ、カレンダーが変わって新しい年となる元旦が特別な日であることに違いはない。大晦日から新年にかけて除夜の鐘を聞きながらおごそかな雰囲気を迎える日本とは違い、カウントダウンなどをしながら1年の打ち上げ会をして明るく過ごすのが欧米流。

音楽の都・ウィーンでも同様だ。クリスマス・シーズンには、アメリカとは違いキリスト生誕をおごそかに祝うためのしっとりとした雰囲気があるけれど、大晦日の夜は「ジルヴェスター・コンサート」で盛り上がり、元旦には「ニューイヤー・コンサート」で明るく楽しく過ごすのが恒例。演奏する人たちにとっては大晦日も元旦も仕事というわけで、オーケストラのメンバーの中にはちょっと一杯のせいで顔を赤くした人や、寝不足であくびをかみ殺している人がいたりするのだが、それも一興。「お正月気分」というのは世界共通なのかもしれない。

#### ウィーンのお正月の定番、シュトラウス2世の舞曲とオペレッタ

この時期に欠かせないのがヨハン・シュトラウス2世の作品を代表とするウィーン生まれの、今風に無理矢理に置き換えればポップスの数々だ。ワルツやポルカなど社交ダンスのための音楽を中心に、ドタバタ恋愛ストーリーを親しみやすい音楽で彩ったオペレッタの中の曲がそれ。いつまでも耳に残る親しみやすく美しいメロディと、華やかなオーケストラの響きをまとった素敵な作品ばかりだ。ヨーロッパの名門ハプスブルク家が最後の光を放った時代、貴族だけでなく大衆へとクラシック音楽の裾野が広がっていき、まさにウィーンは音楽の都だった。その時代にスターだったのがヨハン・シュトラウス2世。燕尾服を颯爽と着こなし、ヴァイオリンを弾きながら自らのオーケストラを率いて活躍した彼。次々に披露される彼の新曲の数々を、聴衆は熱狂して迎えたという。



©ANTO / Wiesenhöfer

日本でウィーン風の大晦日やお正月のコンサートが開かれるようになって久しい。大晦日の演奏後にカウントダウンをし、正月に晴れ着を着てまたコンサートに行くのが恒例となった人も増えたことだろう。今回の埼玉会館でのニューイヤー・コンサートはウィーンの雰囲気をそのまま運んでくれるものだ。シュトラウス2世と同じようにヴァイオリンを弾きながら指揮をするペーター・グートが率いるウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラの登場。1978年結成と若いながらも、99年にウィーン市から公式に市を代表するオーケストラに選ばれた。翌年からはウィーンのコンツェルトハウスでのニューイヤー・コンサートを担当している御墨付きの団体なのだ。

#### 夢の街・ウィーンが、明るい新年をスタートさせる

今回のプログラムは日本公演用に準備してくれているようで、オペレッタで名を馳せたスッペの《ウィーンの朝・昼・晩》で幕開け。「さあ、今から会場はウィーンですよ」というわけだ。シュトラウス2世の名曲の数々、オペレッタからの美しいメロディを盛り沢山に取り入れて、最

後はウィーンへのラヴソング《ウィーンわが夢の街》で締めくくるといふ心憎いもの。中には歌つきの作品も織りまぜられている。歌うのは日本人歌手2人。ソプラノの鈴木慶江とテノールの水口聡。オペラをはじめさまざまなコンサートで活躍中の旬の歌手だ。鈴木は温かくしなやかな美声の持ち主で、ステージ姿が華やかなのも魅力。水口は力強い声を自在に操ってドラマを作り上げてくれる。ともに演技派でもあるから、今回のように肩の力を抜いて心から楽しむような企画では、いつもとは違った優しい表情を見せてくれるに違いない。

埼玉での公演は昔で言う小正月の頃。正月疲れを癒し、本格的に新年のスタートを切る時分だ。このコンサートで英気を養い、幸福で平和な1年を過ごしたい。

### ウィーン! オペレッタは夢の世界!!

水口 聡(オペラ歌手)

森が黄一色に染まる秋から冬、それはウィーンが最もウィーンらしくなる季節。12月の降誕祭～新年のカウントダウン～2月の謝肉祭と舞踏会… 乏しい陽射しが斜めに差し込むその時期、人々はオペラやバレエ、芝居へと、足早に劇場に向かいます。そこは日常生活から夢の世界へと運んでくれる場所なのです。とりわけオペレッタのメロディーは、人生の哀しみや苦難に立ち向かう勇気を与えてくれ、微笑みを取り戻してくれます。劇場を後にした人々は、静かなカフェで公演の余韻に浸り語り合う…そんな光景が似合う街、ウィーン。そのウィーンに住んで早やウン年?! 本場の気分をそのままに、オペレッタの響きを皆様方にお届け致します。同じ季節に日本で、あなたも夢の世界に浸ってみませんか?

#### Profile

ペーター・グート&ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラ

Peter Guth & Strauss Festival Orchestra Vienna

J.シュトラウスの伝統に則ってヴァイオリンを手に指揮するスタイルで国際的に知られる「ウィーンが生んだ希代の音楽家」ペーター・グート。彼が1978年に設立したウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラは、99年のシュトラウス年にウィーン市から公式に同市を代表するオーケストラとして選ばれている。

鈴木 慶江 すずきのりえ(ソプラノ)

東京藝術大学卒。同大学院オペラ科修了。第29回イタリア声楽コンクール第1位ミラノ大賞受賞により1999年からイタリアのG.ニコリーニ国立音楽院に留学。現在国内外で活躍中。リサイタルやオペラ出演の他、小学校を訪ね教育プログラム活動を行う。公式HP <http://www.noriesoprano.com/>

水口 聡 みずぐち さとし(テノール)

ウィーン国立音楽大学を邦人初、全員一致の首席で卒業。ミラノ国際コンクール第1位(1988年)を始め、多数のコンクールで受賞。欧州各地の歌劇場に出演し、数々の主役で成功を収め、「圧倒的な声の威力と緊張感を高揚させる演技を兼ね備えた素晴らしい音楽性のある雄大なテノール」と評される。在ウィーン。

#### ●●●● MUSIC ●●●●

埼玉会館ニューイヤー・コンサート

ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラ

ペーター・グート(指揮&ヴァイオリン) 鈴木慶江(ソプラノ) 水口聡(テノール)

【日時】2009年1月17日(土) 開演 14:00 【会場】埼玉会館 大ホール

【曲目】スッペ:ウィーンの朝・昼・晩 J.シュトラウスII:ウィーン気質

J.シュトラウスII:シャンペン・ポルカ レハール:メリー・ウィドウ・ワルツ

J.シュトラウスII:ポルカ・シュネル(百発百中)

J.シュトラウスII:美しく青きドナウ ジー・ツィンズスキー:ウィーンわが夢の街 ほか

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円/学生B席2,000円

メンバーズ:S席5,400円/A席4,500円/B席3,600円





発売中公演情報 (11.15 ~)

**PLAY**  
**彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾 『冬物語』**  
 詳細は P.4 ~ 6にて

**彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~立川生志の会**  
 ※詳細は下枠 Special Pick Upにて

**源氏語り五十四帖**  
 日時 = 第46回「早蕨(さわらび)」12月7日(日) 第47回「宿木(やどりぎ)1」2009年1月11日(日)  
 第48回「宿木(やどりぎ)2」2009年3月15日(日) 各回開演14:00  
 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 出演 = 幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:フェリス学院大学教授)  
 料金 = 全席指定 1回券:2,500円 第46~48回連続券:6,600円

**DANCE**  
**ナチョ・ドゥアト スペイン国立ダンスカンパニー 『ロミオとジュリエット』**  
 日時 = 11月22日(土) 開演18:00 23日(日) 開演15:00 24日(月・祝) 開演15:00  
 ※23日、24日の公演終了後、ナチョ・ドゥアトによるポスト・パフォーマンス・トークを行います。  
 ※開演時間に遅れますと客席へのご案内ができません。あらかじめご了承ください。  
 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 演目 = 『ロミオとジュリエット』(1998年初演) 振付 = ナチョ・ドゥアト  
 音楽 = セルゲイ・プロコフィエフ ※音楽は録音テープを使用します。  
 出演 = スペイン国立ダンスカンパニー  
 料金 = 一般:S席7,000円/A席5,000円/学生A席3,000円  
 メンバース:S席6,300円/A席4,500円

**CINEMA**  
**彩の国シネマスタジオ『ぐるりのこと。』**  
 詳細は P.7にて

**彩の国シネマスタジオ 熊谷会館上映会 オペラ映画『椿姫』**  
 日時 = 2009年2月28日(土) 11:00 / 14:00  
 会場 = 熊谷会館  
 作曲 = ジュゼッペ・ヴェルディ 監督 = フランコ・ゼッフィレッリ  
 出演 = ヴィオレッタ/テレサ・ストラータス(ソプラノ) アルフレード/ブラシド・ドミンゴ(テノール)  
 ジェルモン/コーネル・マクニール(バリトン) ほか  
 指揮 = ジェイムズ・レヴァイン (1982年/イタリア/105分) イタリア語版(日本語字幕あり)  
 料金 = 一般:前売2,300円/当日2,500円 メンバース:2,000円

**MUSIC**  
**埼玉会館ランチャタイム・コンサート**  
**第6回 東響メンバーによる弦楽四重奏**  
 日時 = 11月27日(木) 開演12:10 (終演予定12:50) 会場 = 埼玉会館 大ホール  
 出演 = 大谷康子・田尻 順(ヴァイオリン) 武生直子(ヴィオラ) 西谷牧人(チェロ)  
 曲目 = モーツァルト:『ディヴェルティメント 二長調』KV136より 第1楽章  
 クライスラー:愛の喜び ほか  
 料金 = 全席指定1,000円

**唐澤まゆ子&荘村清志 デュオ・リサイタル**  
 詳細は P.12 ~ 13にて

**ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7 北村朋幹**  
 日時 = 12月13日(土) 開演14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 曲目 = クラム:1979年のクリスマスのための小組曲  
 J.S. バッハ(北村朋幹編曲):機れみたまえ、わが神よ(《マタイ受難曲》BWV244より 第39曲)、  
 羊たちは安らかに草をはみ(《カンタータ「楽しき狩こそわが喜び」》BWV208より 第9曲)  
 グリーグ:《叙情小品集》より ショパン:バラード第1番 ト短調 作品23  
 ドビュッシー:2つのアラバスク シューマン:クライスレリアーナ 作品16  
 ※出演者の希望により、当初のプログラムより予定曲目の一部を変更させていただきました。  
 料金 = 一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円 メンバース:S席3,150円

**彩の国さいたま芸術劇場ランチャタイム・コンサート リコーダー Q**  
 日時 = 12月22日(月) 開演12:00 (終演予定13:00)  
 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 出演 = 江崎浩司(リコーダー) 高群輝夫(チェロ) 長久真実子(チェンバロ)  
 曲目 = クープラン:愛のうぐいす モーツァルト(江崎浩司編曲):トルコ行進曲 ほか  
 料金 = 全席指定1,000円

**埼玉会館ニューイヤー・コンサート**  
**ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ**  
**ペーター・ゲート(指揮&ヴァイオリン) 鈴木慶江(ソプラノ) 水口 聡(テノール)**  
 詳細は P.14 ~ 15にて

**ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.8 ロマン・デシャルム**  
 日時 = 2009年2月7日(土) 開演14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 曲目 = ブラームス:6つの小品 作品118 フォーレ:舟歌第1番 短調 作品26  
 ラヴェル:ラ・ヴァルス ほか  
 料金 = 一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円 メンバース:S席3,150円

**堤 剛(チェロ) & 小山実稚恵(ピアノ) デュオ・リサイタル**  
**~オール・ブラームス・プログラム~**  
 日時 = 2009年3月8日(日) 開演14:00 会場 = 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 曲目 = ブラームス:チェロ・ソナタ第1番 短調 作品38  
 ブラームス(クレンゲル編曲):チェロ・ソナタ 二長調(原曲:ヴァイオリン・ソナタ第1番 長調 作品78「雨の歌」)  
 ブラームス:チェロ・ソナタ第2番 へ長調 作品99  
 料金 = 一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円  
 メンバース:S席3,600円/A席2,700円

公演詳細は、財団ホームページ  
<http://www.saf.or.jp> にて

**SPECIAL PICK UP**

晴れて真打昇進の立川生志が登場。  
 2009年の初笑いは四季彩亭で。

新春の四季彩亭には、立川生志が登場します。入門から20年、立川流独自の昇格制度の前に、その実力は高く評価されながらも前座・二ツ目時代が長く続きましたが、今春晴れて待望の真打昇進を果たしました。丸みを帯びた福々しい体に、持ち前の明るいキャラクターは新年にぴったり。笑志から改名、心機一転しての高座にご期待ください。ゲストは平成11年度彩の国落語大賞受賞の柳家花緑。来年の初笑いはぜひ四季彩亭で。

**彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~立川生志の会**  
 【日時】2009年1月24日(土) 開演 16:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
 【出演】立川生志 柳家花緑(ゲスト) ほか  
 【チケット(税込)】好評発売中 一般:3,000円 メンバース:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上):2,000円



**information インフォメーション**

**親子で体験!! 舞台の裏側はどうなってるの!? 劇場体験ツアー 参加者募集**

毎年大好評の「劇場体験ツアー」。今年もクリスマスに開催します。普段はめったに上がれない本物の舞台に上がって、その裏側をのぞいてみたり、実際に使う機械に触ってみませんか? まさに劇場を体で感じるわくわくするツアーです。  
 お芝居や音楽会に欠かせない、明かり(照明)や音(音響)、そしてセット(舞台装置)がどういう風に造られて、どんな風に動くのか。皆さんの手で触って、そして動かしてみましよう。クリスマスの素敵な思い出づくりに、さぁおいでください!

【日時】12月23日(火・祝)~26日(金)  
 各日開演11:00・15:00(4日間計8公演)  
 \*開場は各回ともに開演30分前。  
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 【対象】小学生とその保護者  
 \*原則として未就学児のご参加はご遠慮いただきます。(有料託児サービスあり) \*小学3年生未満のお子さまには必ず保護者がご同伴ください。\*親子と一緒に楽しんでいただくツアーです。高学年のお子さまの場合でも、できるだけ保護者の方が一緒にご参加ください。  
 【定員】各回先着30名  
 【料金】500円(子ども・大人共通)  
 \*当日精算のみ  
 【受付開始】11月24日(月・祝)から  
 【申込み】彩の国さいたま芸術劇場  
 048-858-5511



©加藤英弘

**review 公演レビュー**

**勅使川原三郎『Here to Here』**

Saburo Teshigawara Here to Here



©池上直哉

勅使川原三郎『Here to Here』  
 2008年9月20日(土) 16:00開演 / 9月21日(日) 15:00開演 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
 振付・美術・照明・衣裳:勅使川原三郎 選曲:宮田佳 出演:勅使川原三郎 宮田佳 佐東利穂子

**からだの諸感覚が覚醒される充足感**

文=稲田奈緒美(舞踊評論家)

秀逸なダンス作品を創作し続け、世界のトップランナーとして活躍する勅使川原三郎が、初めて彩の国さいたま芸術劇場で踊った。1995年にフランクフルトで初演された後、約3年間で世界17都市を回り、絶賛を博した『Here to Here』である。再演を望む声に応えて、昨年イタリアとフランスで上演され、ようやく日本の観客の前に姿を現した。  
 舞台は真っ白な壁で囲まれ、強烈な光によって照らし出されている。一切の装飾も、また陰影さえ削ぎ落とされた無機質な空間で、黒い衣装の勅使川原が踊る。極めて高い集中力によって、微塵たりとも妥協や情性を許さず、鋭く、険しく、空間を切るように踊り始めるが、光が徐々に闇へと、青い光へと変わるに従って踊りが変わっていく。そして、白い天井が動き始め、勅使川原を押しつぶそうとするかのように下へ降りてくる。白く光る広大な面が勅使川原を飲み込むと思った瞬間、その壁が彼のからだをやわらかく包むように密着し、伸縮性のある布であったことがわかる。勅使川原は床に伏したまま、さきほどまでの硬質な光を肌理の細かな表皮としてまとい、再び踊り始める。そこへ、宮田佳、佐東利穂子が現れ、さらに様々な影が現れ、勅使川原が構築した高密度の空間にゆがみや亀裂を生じさせ、どこから寓話的な時間の奥行きさえ加えていく。  
 圧倒的なまでのダンス。その身体と空間、時間に観客は陶酔すると同時に、閉じていたからだの諸感覚が覚醒していくような充足感を味わった。ダンスの広大さと繊細さ、構築性と不定形さ、そしてさらなる可能性を感じさせた作品である。(9月21日公演評)

## ■サポーター会員

(財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)エフテック／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／金井大道具(株)埼玉りそな銀行／(株)パシフィックアートセンター／アサヒ印刷(株)／FM NACK5／東京電力(株)埼玉支店／東京ガス(株)／JA/JA埼玉県信連／カヤバシステム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)オメダム／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)／日本データコム(株)／(株)ビルメン／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)／ソシエテジェネラルアセットマネジメント(株)／ゲレツツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)松永建設／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／あいおい損害保険(株)埼玉営業部／(株)ショーマン埼玉スバル自動車(株)／(株)木下フレンド／(株)東玉／福本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター(株)オリエン／不動開発(株)／ビストロ やま／ホッカイエムアイシー(株)／埼玉縣信用金庫／(有)武蔵興産／(株)栗原運輸／(株)エコ計画／彩の国SPグループ(有)プラネット／トキタ種苗(株)／関東自動車(株)／日本ピストンリング(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／亀井産業(株)／(株)グリーン企画社／(有)中島運輸(株)国際ビジネス研究所／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／太平洋セメント(株)／(株)ピー・アンド・イー・ディレクションズ／朝日新聞 伸光堂さいたま販売(株)丸美屋食品工業(株)／マツヤハウジング(株)／日立キャピタル(株)／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉建興(株)／(株)日産サティオ埼玉埼玉トヨペット(株)／(株)あいおい保険総合サービス／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／(株)アライヘルメット／西武文理大学／(株)東和銀行医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)協同商事コエドブルワリー／(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／三光ソフラン(株)／五光印刷(株)旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドテック(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス H20.10.15現在／一部未掲載

【問合せ先】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

Art Window

## 冬物語



イタリアの中世の教会で、砂時計と鎌を携えた骸骨の装飾品を見かけ、ぎょっとさせられることが度々ある。

砂時計は「限られた時間」、鎌や骸骨は「死」の象徴。

これらのモチーフは、当時のキリスト教の死生観「メメントモリ」死を想えの

芸術作品に頻繁に登場し、人々に死をもって生を認識させた。

砂時計と鎌は、古くはギリシャ神話の時間の神・クロノスのシンボルとして老人の姿と共に描かれる。

シェイクスピアの時代、冬物語の舞台に登場する「時間」の姿も、砂時計と鎌を持つ翁であったようだが、

現代の舞台では演出により、さまざまな形象で表現される。

「時間」という、この世の万物を支配する目に見えない存在。

その「姿」に人々の想像は尽きない。